

# 特定健康診査・特定保健指導について

船橋市保健所 健康づくり課

# I - 1 特定健康診査の概要

## 【目的】

- メタボリックシンドロームに着目し、生活習慣病の発症を予防する目的で健康診査を実施

## 【対象者】

- 40歳以上74歳未満の国民健康保険被保険者

## 【検査項目】

- 問診、身体計測、血圧、肝機能検査、血中脂質検査、腎機能検査、尿検査、貧血検査、血糖検査 等

※後期高齢者医療制度の加入者（75歳以上）に対しても特定健康診査に準じた健康診査を実施

# I - 1 特定健康診査の実施状況

## 【実施状況】

船橋市医師会に委託	協力医療機関（約160機関）にて、個別に受診することが可能
健診実施期間	5月～翌年3月末 （通常、3か月の受診期間を、コロナ禍では3月31日まで延長して対応）
受診券発送	誕生月に応じて、対象者に受診券を個別発送 （※胃がん検診は登録制。登録者へ個別通知。）

## 【受診率向上の取組】

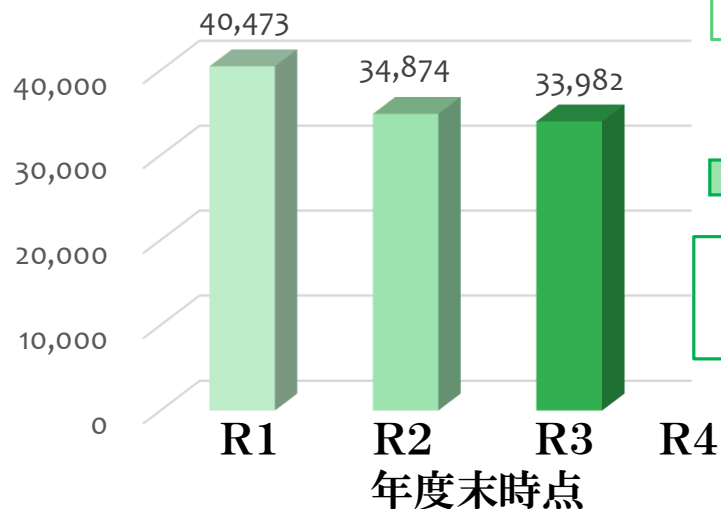
- 一括がん検診と同時受診が可能（肺がん・大腸がん・前立腺がん）
- 平成28年度から人間ドック、平成30年度から脳ドックの費用助成を開始
- 特定健康診査結果とレセプト情報をもとに、対象者にあわせた7種類の通知により未受診者勧奨を実施

# I - 1 特定健康診査の対象者数と受診者数

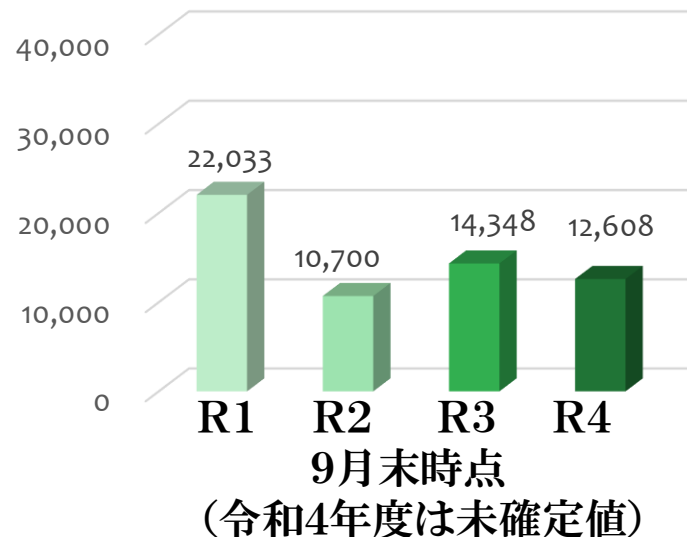
対象者数



受診者数

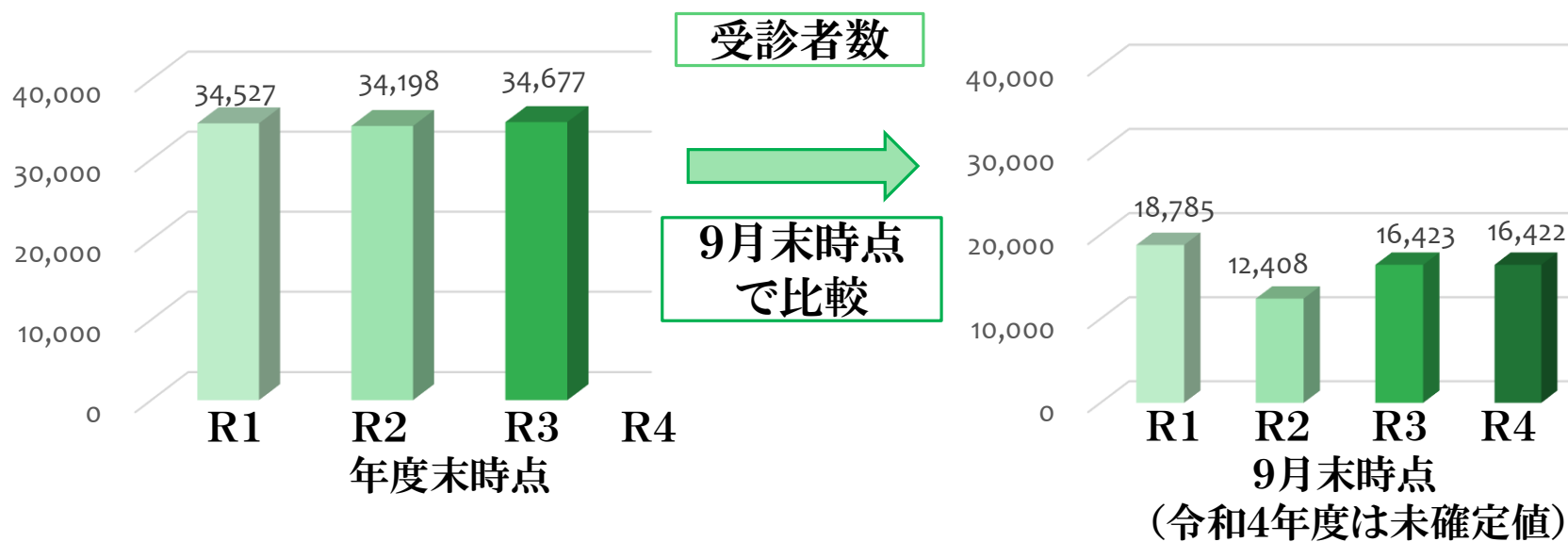
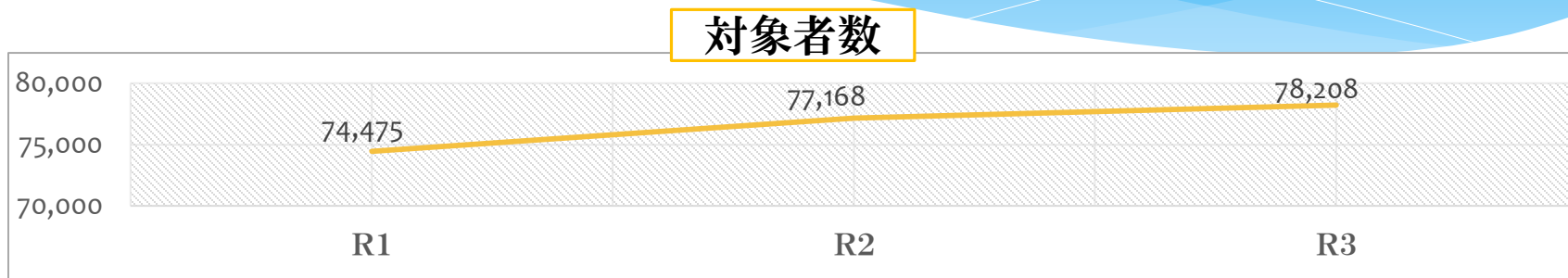


9月末時点で比較



- コロナの影響により、令和2・3年度の受診者数が減少
- 9月末時点の比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向
- 受診状況をコロナ前の状態に戻していくことが当面の課題

# I - 1 後期高齢者健康診査の対象者数と受診者数



- 特定健康診査ほど、コロナ禍による受診者減の影響は受けていない
- 9月末時点の比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向

# I - 2 特定保健指導の概要

## 【目的】

- 生活習慣改善のための保健指導を行なうことにより、対象者が健康のセルフケアを継続的にできるよう促し、生活習慣病の発症を予防する

## 【対象者】

- 特定健康診査を受けた40～74歳の者のうち、下記の階層化基準に基づき、特定保健指導の対象者となった者

服薬状況	ステップ①	ステップ②	喫煙	年度末年齢	特定保健指導
服薬なし	腹囲 男性：85 cm以上 女性：90 cm以上	2つ以上該当	—	64歳以下	積極的支援
				65歳以上	動機づけ支援
		1つ該当	あり	64歳以下	積極的支援
				65歳以上	動機づけ支援
			なし	—	動機づけ支援
		該当なし=情報提供			
	腹囲 男性：85 cm未満 女性：90 cm未満 かつBMI25以上	3つ該当	—	64歳以下	積極的支援
				65歳以上	動機づけ支援
		2つ該当	あり	64歳以下	積極的支援
				65歳以上	動機づけ支援
		なし	—	動機づけ支援	
1つ該当		—	—	動機づけ支援	
該当なし=情報提供				情報提供	
服薬あり	情報提供				

### ステップ② 追加リスク項目

- ①血糖：  
空腹時血糖100mg/dL以上  
または  
HbA1c 5.6%以上
- ②脂質：  
中性脂肪150mg/dL以上  
または  
HDLコレステロール40mg/dL未満
- ③血圧：  
収縮期血圧130mmHg以上  
または  
拡張期血圧85mmHg以上

## I - 2 特定保健指導の実施状況

### 【実施状況】

船橋市医師会へ委託して実施	健診実施医療機関のうち約40機関 健診受診後の結果説明と同時に初回面接 (6月～翌年3月末まで実施)
医療機関以外での実施	健診受診3～4か月以降に、対象者を把握 して利用を勧奨し、健康づくり課や委託先 の事業者で初回面接(7月～翌年8月末ま で実施)

### 【実施率向上の取組】

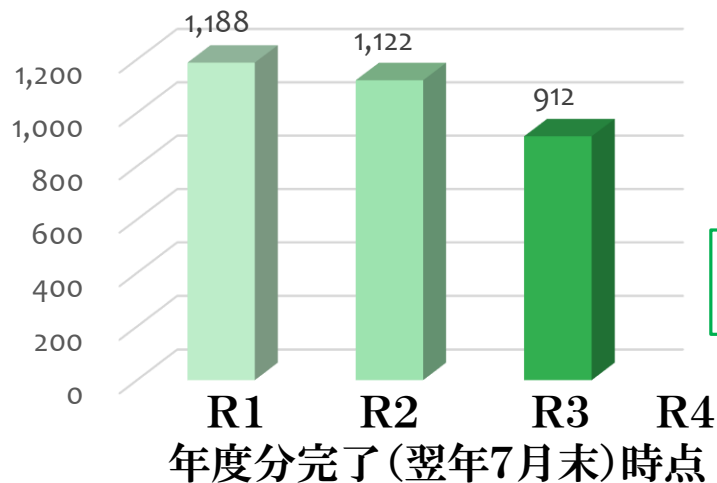
- かかりつけ医療機関で、健診の結果説明と同時に初回面接を受けることができれば、対象者にとって利便性が上がり、実施率の向上にも繋がる。医療機関での初回面接後の支援を健康づくり課が引き継ぐことで、医療機関の負担を軽減し、医療機関が受託しやすい仕組みを構築
- 対象者のニーズに合わせて、公民館等を積極的に活用した面接やオンラインによる面接を実施

# I - 2 特定保健指導の対象者数と実施者数 (初回面接実施者数)

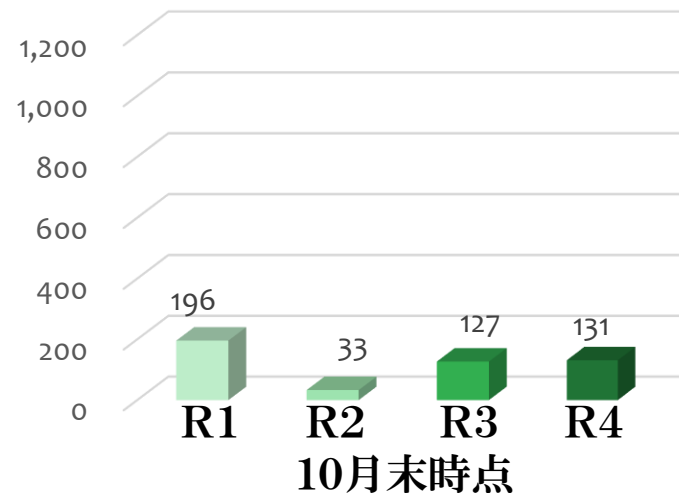
対象者数



実施者数



10月末時点で比較



- 令和2・3年度の特定健診受診者数の減少により、特定保健指導の対象者及び実施者数も減少
- 10月末時点の比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向



## I-3 今後の課題と対応

### 【課題】

- ・目標の受診率（実施率）に到達していない（令和3年度）

	目標	本市実績	千葉県平均
特定健康診査	56%	42.0%	36.6%
特定保健指導	50%	28.2%	22.2%

### 【対応】

- ・令和5年度に、令和6～11年度までのデータヘルス計画を策定することから、国から発出される指針の内容、及び本市のコロナ禍での健康課題を整理し、今後を見据えた受診率向上策について検討し、計画に盛り込む

## I - 4 慢性腎臓病対策事業の概要（平成25年度～）

### 【目的】

- 腎機能低下リスクが高い者に対して早い段階から保健指導を実施し、腎機能低下を抑制して、QOL低下の大きな原因となる新規人工透析導入者数を減少させる

### 【対象者】

- 特定健康診査を受けた者のうち、腎機能低下がみられる者
  - ①40歳～69歳で、腎機能を示すeGFR値・尿蛋白値より抽出  
<令和2年度から支援基準を拡大>
  - ②70歳～74歳で、eGFR値(①より低値)・尿蛋白値より抽出

### 【支援内容】

- 訪問や面接、電話にて受診勧奨し、かかりつけ医がいる場合は療養上の指示を仰いだ上で対象者の腎機能レベルに応じた保健指導を実施。初回支援から2～3か月後に継続支援を行い、受診結果や行動変容の変化を確認

# I - 4 慢性腎臓病対策事業の対象者数と実施者数 (初回面接実施者数)

40歳～69歳

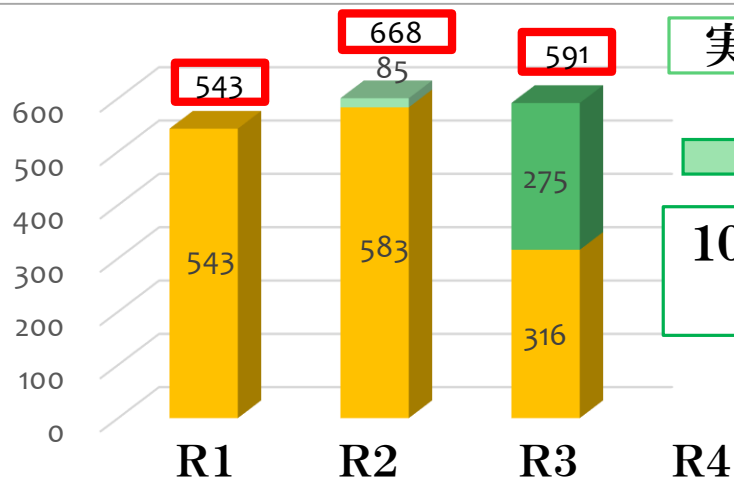
70歳～74歳

全体数

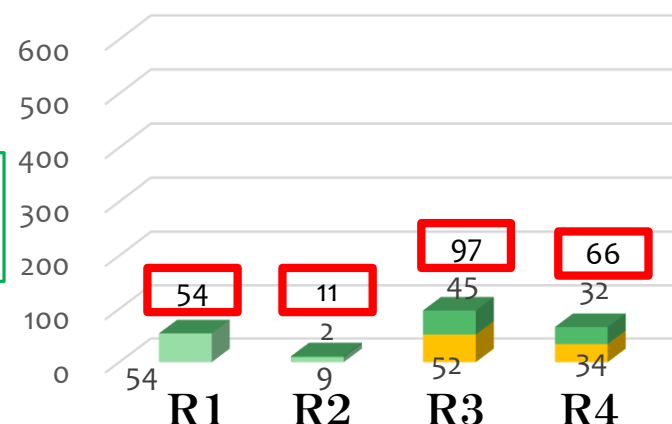
対象者数



実施者数



10月末時点で比較



年度分完了(翌年7月末)時点

10月末時点

- 加齢と共に腎機能は低下しやすいことから、医師会CKD対策委員会の進言もあり令和2年度は本市独自に70代へ対象者基準を拡大し、令和3年度以降も千葉県基準に合わせて変更している
- 70代の基準値は、69歳以下よりも厳しく設定しており年代別の出現率は変わらないが、全体の対象者数や実施者数は増加傾向
- 10月末時点の比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向

## I - 4 慢性腎臓病対策事業の課題と対応

### 【課題】

- ・コロナ禍で予約なしの訪問は現在も中止しており、電話支援は実施しているものの、電話では得られる情報も限られ、対象者の反応も伺いづらい

初回支援実施率	目標	実績（うち、電話での支援率）
令和元年度	85%	76.9%（66.5%）
令和2年度		81.8%（90.6%）
令和3年度		80.4%（79.9%）

※令和2年度・3年度と70代にも支援基準を拡大して実施

### 【対応】

- ・公民館を積極的に活用するなど、対象者のニーズに合わせた面接支援を実施
- ・医師会や専門医と協議の上で作成した相談用紙の活用等により、かかりつけ医療機関から腎臓疾患の専門医への相談連携を促進

# I - 5 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の概要

(平成28年度～)

## 【目的】

- 血糖値が高い者に対し適切な受療行動に結びつける。また保健指導にて糖尿病性腎症の発症または悪化を防ぎ、医療費負担の大きい新規人工透析導入者数を減少させる

## 【対象者】 糖尿病による腎機能低下のリスクが高い者

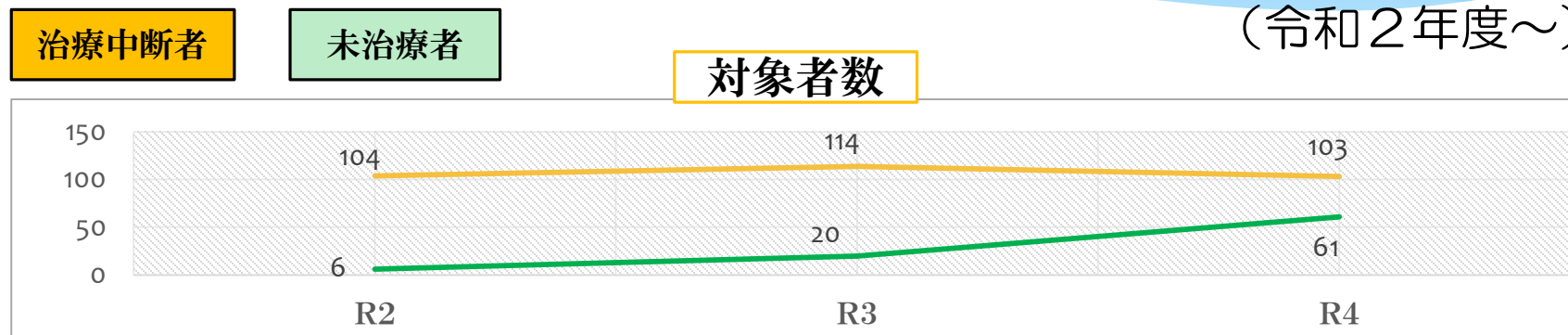
- ① 特定健康診査を受けた者のうち、糖尿病や腎症の進行度を示すHbA1c・空腹時血糖・尿蛋白・eGFR値より抽出
- ② 治療中断者（糖尿病治療歴があり2年前から健診や医療受診なし）
- ③ 未治療者（3年前健診で高血糖があり2年前から健診や医療受診なし）

## 【支援内容】

- (対象①)
- 訪問や面接、電話での受診勧奨
  - かかりつけ医より療養上の指示を仰いだ上での保健指導
  - 初回支援から6カ月間の継続支援（運動教室含む）
- (対象②③)
- 健診受診券の発送時期に合わせた受診勧奨の文書発送
  - 5か月後の未受診時には、再度電話等で勧奨

# I - 5 糖尿病性腎症重症化予防対策事業における 治療中断者および未治療者への対応

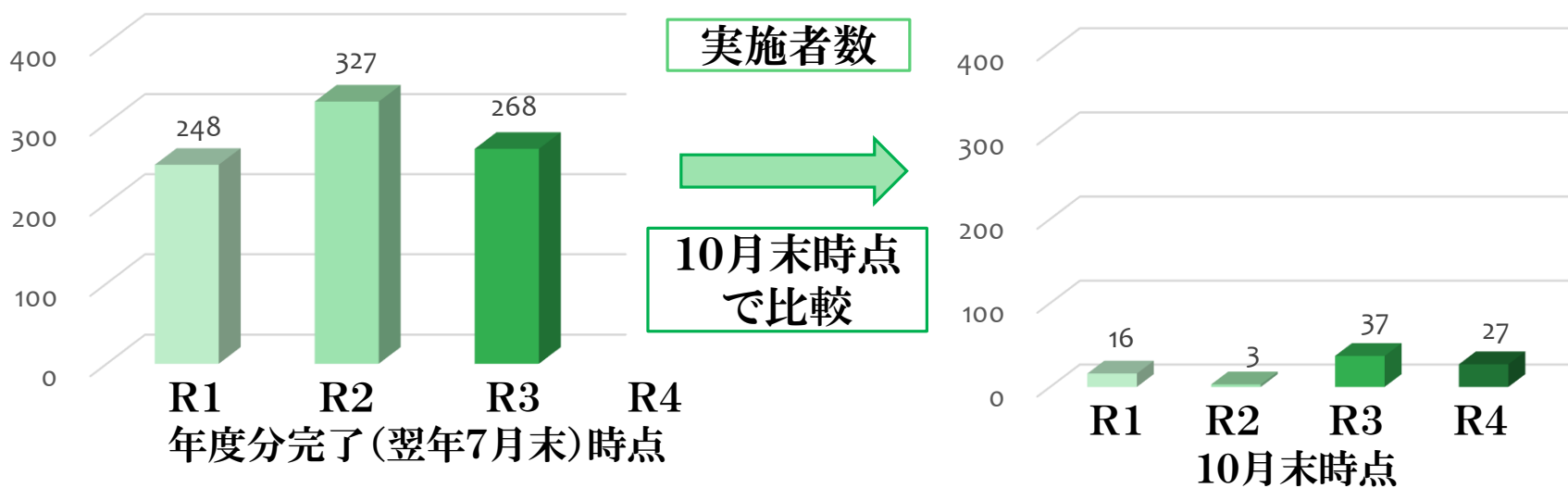
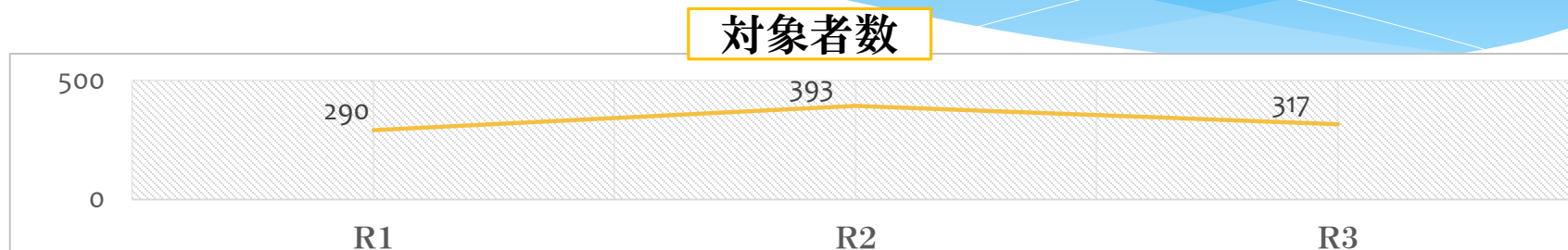
(令和2年度～)



実施年度	健診や医療受診につながった数		健診や医療受診につながった率	
	治療中断者	未治療者	治療中断者	未治療者
令和2年度	34	3	32.7%	50.0%
令和3年度	22	9	19.3%	45.0%

- 2年間、健診や医療のいずれも受診していない未治療者の対象者数が年々増加
- 治療中断者に比べると未治療者の方が受診につながりやすい傾向
- 健診や医療への受診確認は、受診勧奨から5か月後以降になるため、令和4年度分は不明

# I - 5 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の対象者数と実施者数（対象者①における初回面接実施者数）



- 令和2年度は、千葉県に合わせ対象者基準を拡大したため対象者数・実施者数が増加
- 10月末時点の比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向

# I - 5 糖尿病性腎症重症化予防対策事業の課題と対応

## 【課題】

- ・コロナ禍で予約なしの訪問は現在も中止しており、電話での支援は継続して実施できるが電話支援では得られる情報も限られ、対象者の反応も伺いづらい

初回支援実施率	目標	実績（うち、電話での支援率）
令和元年度	90%	85.5%（81.9%）
令和2年度		83.2%（91.1%）
令和3年度		84.5%（67.9%）

※令和2年度より千葉県基準に合わせて対象者を拡大して実施

## 【対応】

- ・公民館を積極的に活用するなど、対象者のニーズに合わせた面接支援を実施
- ・糖尿病連携手帳等を活用したかかりつけ医療機関との情報共有の促進



# I-6 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業 (R2年度より開始)

【背景】医療費適正化を図る国保対象者への保健事業だけではなく、健康寿命の延伸や介護予防を視野に入れた後期高齢者医療制度移行後のシームレスな保健事業の展開が求められている。

## ハイリスクアプローチ（後期高齢者健診受診結果から対象者抽出）

### 【糖尿病性腎症重症化予防事業】

目的：糖尿病による腎機能低下のリスクの高い者に保健指導を実施し、セルフケア能力の維持と腎機能低下を抑制し、新規人工透析導入者を減少させる

対象：HbA1c8%以上かつ①尿蛋白+以上または②eGFR45未満の者

### 【低栄養防止（フレイル予防）事業】

目的：低栄養を改善することで、介護予防およびQOL低下の予防を目指す

対象：血清アルブミン3.8未満かつBMI18.5未満の者

## ポピュレーションアプローチ

### 【通いの場での取り組み】

ふなばしシルバーリハビリ体操の参加者に向けたミニ健康教育

### 【気軽に相談できる環境づくり】

後期健診の結果送付時、フレイルに関する情報提供を行って適宜相談対応

# I-6 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業 (R2年度より開始)

## ハイリスクアプローチ

【糖尿病性腎症重症化予防事業】

健診年度	対象者数	初回実施率
令和2年度	228	87.7%
令和3年度	204	73.5%

【低栄養防止（フレイル予防）事業】

健診年度	対象者数	初回実施率
令和2年度	208	82.2%
令和3年度	270	73.3%

## ポピュレーションアプローチ

	ふなばしシルバーリハビリ体操教室でのミニ健康教育		気軽に相談できる環境づくり
	実施回数	実施人数	フレイル等に関する相談対応人数
令和2年度	2会場	39	40
令和3年度	8会場	164	70

# 各種がん検診について

船橋市 保健所 健康づくり課

## Ⅱ - 1 各種がん検診の概要

### 【目的】

がんの早期発見の推進を図ることにより、がんの死亡率を減少させることを目的として実施

	対象年齢	検査方法
肺がん検診	40歳以上	胸部エックス線
大腸がん検診	〃	免疫便潜血
子宮頸がん検診※1	20歳以上	頸部細胞診 (30歳代はHPVも併用)
乳がん検診※1	30歳代	超音波
	40歳以上	マンモグラフィ
胃がん検診※1	40歳以上	胃部エックス線
	50歳以上	胃部エックス線 又は 内視鏡
前立腺がん検診※2	50歳以上	PSA（前立腺特異抗原）

※1…2年に1回の検診

※2…5年に1回の検診

## Ⅱ - 2 各種がん検診の実施状況

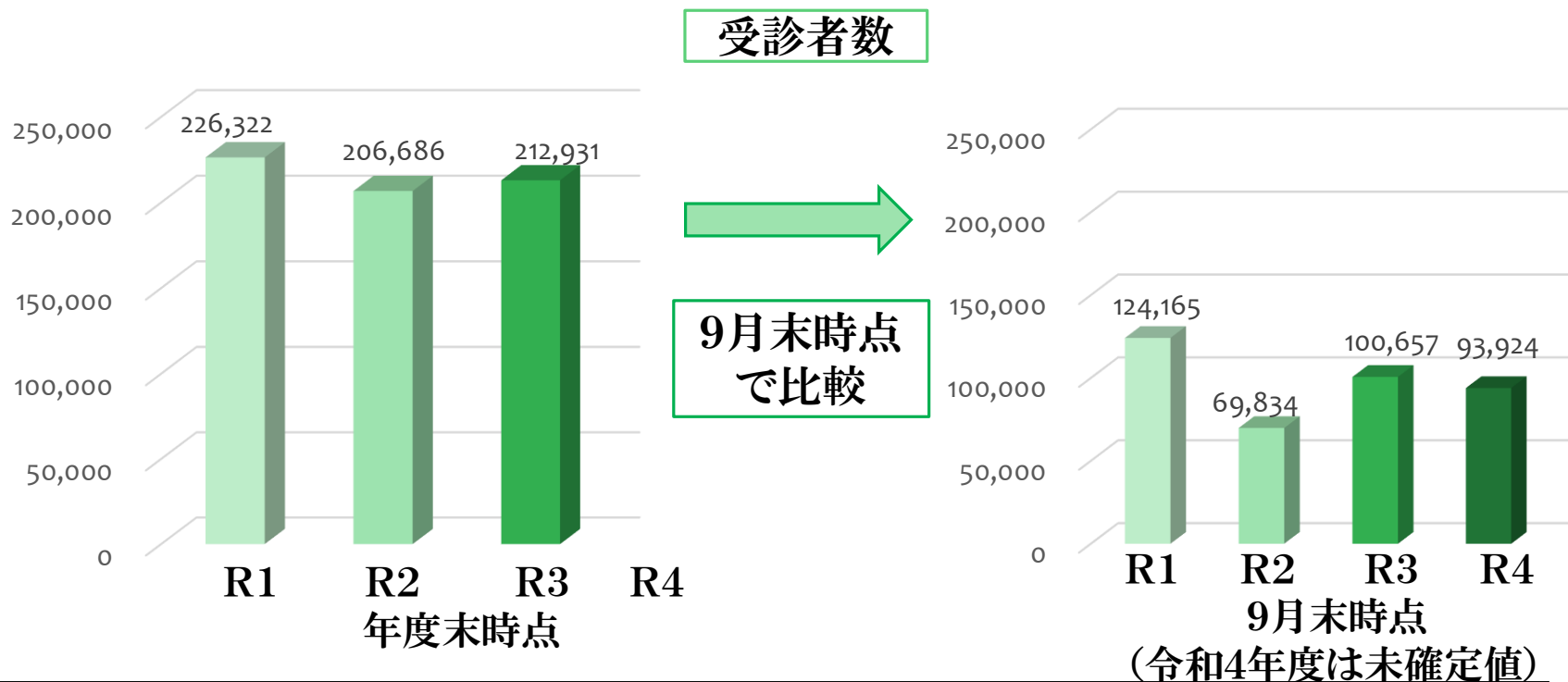
### 【実施状況】

船橋市医師会に委託	胃がん：約50医療機関 肺・大腸・前立腺がん：約160医療機関 乳・子宮頸がん：約20医療機関
健診実施期間	胃・乳・子宮頸がん 4月～翌年3月末 肺・大腸・前立腺がん 5月～翌年3月末 (通常、3か月の受診期間を、コロナ禍では3月末まで延長して対応)
受診券発送	誕生月に応じて、対象者に受診券を個別発送 (※胃がん検診は登録制。登録者へ個別通知)

### 【受診率向上の取組】

- ・子宮頸がん検診（21歳）・乳がん検診（41歳）の年齢を迎えた方に、無料のクーポン券を発送
- ・特定健康診査と同時受診が可能（肺がん・大腸がん・前立腺がん）

## Ⅱ - 3 各種がん検診の受診者数 (胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)



- コロナの影響により、令和2・3年度の受診者数が減少
- 9月末時点での比較で、令和4年度は、令和3年度と同様の傾向
- 受診状況をコロナ前の状態に戻していくことが当面の課題

## Ⅱ - 4 今後の課題と対応

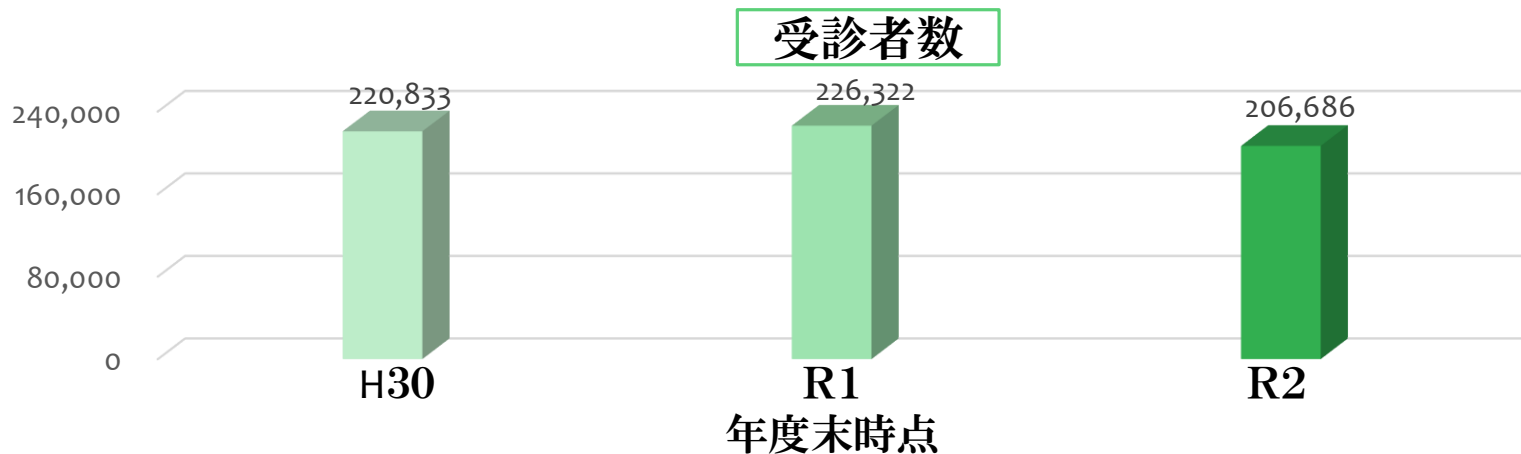
### 【課題】

- がん検診によって受診率にばらつきがある  
胃がん 4.1% 肺がん 9.8% 大腸がん 9.5%  
乳がん 21.9% 子宮頸がん 21.0%

### 【対応】

- 年齢区分に応じた受診率向上の取り組みを行う【特定健診と共通】
- がんとその予防についての正しい知識と早期発見・早期治療の必要性を周知する  
(令和4年度は「がん征圧月間」である9月に、市内図書館と協力し、がんに関する図書コーナーを設置し、併せて、市で実施しているがん検診の案内を配架した)

## Ⅱ - 5 本市におけるがん発見数について (コロナによる影響)



- コロナの影響による令和2年度の受診者数減少に伴い、がん発見数が減少しているものの、がん発見率（受診者数のうち、がんが発見された割合）は一定で推移している